

式 辞

正門の横に咲いている梅の花が、きょう、満開となりました。まるで皆さんの門出を祝うかのように、美しく咲き誇っています。七十七期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、令和5年4月にこの北稜中学校に入学しました。皆さんには、忘れられない小学校時代があります。小学三年生の三月、突然学校に行けなくなりました。学校が再開しても、給食は黙って食べる。音楽の時間に歌えない。子どもにとって当たり前なのが、当たり前ではなくなった日々でした。

しかし、皆さんは、限られた中でもできることを見つけ、工夫し、前に進み続けました。そして令和5年の春、皆さんはこの北稜中学校の門をくぐったのです。

私がこの北稜中学校に着任したのは、令和七年の四月。皆さんが3年生になった年でした。着任してすぐのことです。一年生が入学してきた日、グラウンドに立っていた私に、最初に声をかけてくれたのは、プラカードを持って立っていた、3年生のある生徒でした。新しくやってきた校長に、まだ何者かもわからない大人に、笑顔で話しかけてくれた。

皆さんは知らないかもしれませんが、新しい学校に赴任する先生も、実は不安があります。そんな緊張の中にいた私に、その3年生との何気ない会話は、

「大丈夫ですよ、ここにいていいですよ」

と言ってくれたようなものでした。あれはまさに「心理的安全性」だったのだと、後になって気づきました。

心理的安全性。少し難しい言葉ですが、卒業する皆さんにぜひ覚えていってほしい言葉です。心理的安全性とは、「この場所にいていいんだ」「ここでは自分を出しても大丈夫なんだ」と感じられる安心感のことです。失敗しても笑われない。質問しても馬鹿にされない。「助けて」と言える。ありのままの自分でいられる。そういう空気のことを言います。

前期の生徒会長さん。あの日、君がくれたのは心理的安全性でした。ありがとう。

七十七期生の素晴らしさは、修学旅行でも存分に発揮されました。私が何より感心したのは、皆さんの「切り

替え」の見事さです。説明の場面ではきちんと話を聞き、学ぶべきことを学ぶ。集合時間を守り、周囲への気配りも忘れない。どの場面でも仲間と協力し、声をかけ合いながら動いていました。賢い学年だなど、心の底から思いました。

しかし、楽しむときの皆さんは別人でした。うどん作り体験では、音楽に合わせてノリノリで生地をこねていましたね。そして、夜のレクリエーション。あの趣向の凝らしっぷりには、脱帽しました。よくもまあ、あそこまで準備したものだ、感心を通り越して、こころから、笑ってしまいました。

「やるときはやる。楽しむときは全力で楽しむ。」

この切り替えができる力は、皆さんがこれから社会に出ていく上で、きっと大きな武器になります。

普段の学校生活でも、皆さんは本当に頼もしい存在でした。最高学年として、当たり前のことを当たり前にする。あいさつをする。時間を守る。後輩に優しく接する。その「当たり前」を自然体でできることが、どれほどすごいことか。一・二年生は、いつも皆さんの背中を見ていました。皆さんを目標にしていたことが、私にはよくわかります。

以前、合唱コンクールの講評でも少しお話ししましたが、あのときは説明が足りませんでした。きょう、改めて伝えます。むかし、夜の海を走る漁師たちは、北極星を目当てにして船を走らせていました。北極星は、いつも同じ場所で光っています。けれども、暗い海の上で方角を見失いそうになったとき、あの一つの光が漁師たちの命を守り、港へと導いてくれたのです。

七十七期生の皆さんは、この一年間、一・二年生にとっての北極星でした。皆さんが道しるべだった。皆さんがいたから、後輩たちは安心して前に進むことができた。そのことを、どうか誇りに思ってください。

さて、ここからは、はなむけの言葉です。この一年間、私は全校集会のたびに、同じことを繰り返しお願ひしてきました。

自分を大切にすること。そして隣にいる人を大切にすること。

何度も何度も、同じことを言い続けてきました。しつこかったかもしれませんが、でも、言い続けました。なぜ

なら、これが人として生きていく上で、いちばん大切なことだと、私は信じているからです。

世界には、国籍も、文化も、言葉も、信じるものも違う人たちがいます。けれども、どんな違いがあっても、すべての人は生まれながらにして尊い存在です。一人ひとりの命には、かけがえのない尊厳があります。それは教室の中でも、広い世界の中でも同じです。目の前の一人を大切にできる人は、まだ見ぬ誰かの権利や尊厳も守れる人です。その反対に、隣の人を雑に扱うことの積み重ねが、やがて差別や排除になり、争いになる。世界の大きな問題も、いつも相手を雑に扱うことから始まります。だからこそ、これから出会う一人ひとりを、大切にしてください。

皆さんがこれから進む先には、新しい教室があり、新しい仲間がいます。その新しい場所で、不安を感じている人が必ずいます。そのとき、どうか隣にいる人に声をかけてあげてください。「おはよう」だけでいい。その一言が、相手にとっての心理的安全性になります。「ここにいていいんだ」と思える安心感になります。

皆さんはこれから、社会という大きな海に漕ぎ出していきます。嵐の日もあるでしょう。方角を見失いそうになる夜もあるでしょう。そんなときは、皆さん自身が、誰かの北極星になれるということを思い出してください。隣にいる人を大切にする。その小さな光が、暗闇の中で誰かを照らし、誰かを港へと導くのです。

結びに、七十七期生の皆さんに伝えたいことがあります。北稜中学校は、皆さんの母校です。卒業しても、この校舎はここに 있습니다。先生たちもいます。正門の横の梅も、来年の春にはまた花を咲かせるでしょう。うれしいことがあったとき。辛いことがあったとき。ただなんとなく、懐かしくなったとき。いつでも帰ってきてください。「ただいま」と言える場所が、ここにはあります。皆さんの学び舎は、いつまでも皆さんを待っています。

保護者の皆さまに一言申し上げます。お子さまのご卒業、誠におめでとうございます。思春期という難しい時期を、時に悩みながらも、温かく支え続けてくださいました。三年間のご理解とご協力に、教職員一同、深く感謝申し上げます。

ご来賓の皆さま、本日はご多用のところご臨席を賜

り、高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。日頃より地域の中で子どもたちを見守り、育ててくださっていることに、改めてお礼申し上げます。七十七期生の皆さんの前途に、幸多からんことを心よりお祈り申しあげ、式辞といたします。

令和八年三月十三日

大阪市立北稜中学校 校長 神山 卓也